2. 結果および考察

実験 1：断根区では、発病増加が著しく、接種 20 日後には、供試 2 種類と 60%以上の株が発病した。接種菌濃度は 10⁷ が 10⁴CFU/ml で発病が著しかった。これに対して無断根区は断根区に比べ発病株率が低かった。このことから断根処理は発病増加を抑制することができる。

実験 2：発病初期には発病株率に差が認められなかったが、日数の経過に伴い発病株率に差が生じた。'キングアーサー'は接種 30 日後にはすべての区で 100%の発病株率であったが他の品種では発病株率が低かった。2ml 区では'アストラッド'の発病株率を示した。5ml 区、7ml 区の最終的な発病株率はほぼ等価であった（第 2 図）。このことから、72 小時成形型トレイを使用した場合の接種菌濃度は 5ml 以上で良いと考えられる。

実験 3：各試験区における発病状況は第 3 図に示したとおりである。初発病期の管理温度が高いほど早く、その後の発病株率の増加も同じ傾向を示した。25 - 20°C 区については、接種 12 日後に 100%の発病株率となった。最終的な発病株率は 20 - 20°C 区、25 - 20°C 区はほぼ等価であった。20°C 以上の設定での発病株率が高いため、20°C を保つだけで検定が可能であると考えられる。